

身近な文化財

第八話

ムジナブチ

秋の行事の一つに「ムジナブチ」と呼ばれる少し変わった名前の行事があります。

「ムジナブチ」には、収穫に感謝する意味合いや、畑を荒らすモグラなどを追い払う意味合いがあるとされており、旧暦の10月10日（または9日）に行われます。

現在は、五箇地区の舟田・田島入方や本沼、表郷地域の深渡戸などで行われていますが、かつてはより広い地域で行われていました。

行事の呼び名は、地域によって「ムジナブチ」「ドウランブチ」「ドツタラブチ」「舞い込んだ」などさまざまですが、内容はおよそ共通しています。

この行事は、地域の子供たちが主役となります。家々を回っては、決まった文句を唱えながら棒を地面に叩きつけるという一風変わったものです。

ここで使われる棒は「ブチボウ」などといい、稲わらの束にミョウガや芋などをを入れて縄で固く縛ったものです。

子どもたちが地域の家を回る際には、まず家の人に声をかけ

てから、玄関先で決まった文句を唱えながら、ブチボウで地面を叩きます。

唱える内容は、地域ごとに少しずつ異なります。例えば、本沼地区で行われる「舞い込んだ」では「舞いこんだ舞いこんだ、福の神が舞いこんだ、大麦小麦、三角そばあたれ、福の神さずけ」と唱えます。

その後、家の人から餅やお金を受け取り、集めたお金はあとで分け合ったり、子ども会の催しに使います。

これによく似た行事は、北関東や長野にも伝わっており「十日夜」などと呼ばれています。

地域の身近な文化財の中には、このように子どもたちが重要な役割を担う年中行事もあります。



▲「舞い込んだ」(本沼地区)



▲「舞い込んだ」で使われるブチボウ

問文化財課 ☎ 2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.8

本庁舎都市計画課 内2232



谷津田川せせらぎ通り

今月号は「住民の皆さんが取り組む景観まちづくり」をテーマにお知らせします。

良好な景観づくりには、そこに暮らす皆さんの景観に対する理解とまちづくりへの積極的な関わりが欠かせません。

現在、市内5地区でまちの特性を生かした良好な景観をつくるため「景観まちづくり協定」が結ばれています。住民の皆さんの話し合いで、建物の新築や改修を行う際の建物の高さや壁面の位置、屋根の形状、色彩などの基準



WORK SHOP!!

を決め、周辺環境と調和した景観づくりに取り組んでいます。

建物の修景整備だけでなく、まちを彩る植栽や地域の清掃活動など、日々の暮らしに根ざした地道な活動も景観づくりにつながります。

皆さんのまちでも、身近なところから景観づくりに取り組んでみませんか。

景観まちづくり協定締結地区

- ▷ 金屋町谷津田川せせらぎ通り景観協定
- ▷ 白河城下景観まちづくり協定
- ▷ 白河門前通り景観まちづくり協定
- ▷ 横町景観まちづくり協定
- ▷ 田町景観まちづくり協定



おすすめ景観募集中!

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をインスタグラムで教えてください。

※詳しくは市ホームページへ